

事業名称	市民ボランティアによる「太田山公園・恋の森」活用のための文化的事業と整備事業		
団体名 (構成人数)	太田山公園・恋の森をきれいにする会 (23名)	代表者	加瀬 隆
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	<p>この太田山公園・恋の森は、いつも足の踏み場がないくらい、草が生い茂っており、市で定期的に草刈りを実施しているものの、人々の憩いの場としての公園の機能を果たしておりません。そこで、この公園を「憩いの場」として機能復帰するために、草刈りや落ち葉拾いといった清掃活動を定期的に行い、木更津市民のシンボルともいえる太田山公園・恋の森をきれいにしていくことを目的として本会を立ち上げ、整備事業を実施したことで、大きくきれいに姿貌しつつあります。</p> <p>具体的な作業内容としては、この周囲4km弱の広大な太田山公園・恋の森には七つの広場がありますがほとんどの市民はこれを知りません。引き続き、我々ボランティアが、草刈りや落葉拾い等の整備事業を行います。きれいになった太田山公園・恋の森で、文化的事業として、親子写生大会と親子植物観察会を実施します。太田山は史跡の宝庫であることから、歴史散歩等を開催し、文化的事業の拡大を図ります。また、太田山公園の認知度を高め、子供が遊べる公園になるよう、冒険心あふれるプレーパークにします。</p>		
事業の必要性と目的 審査基準： 「公益性」	<p>太田山公園内には、「木更津市郷土博物館金のすず」という市内にある金鈴塚古墳から出土した「金の鈴」（国指定重要文化財）が保存されている博物館や「旧安西家住宅」という江戸時代中期の民家（市指定文化財）があり、ここでは木更津の市史や文化の一端を知ることができます。また、「きみさらざタワー」という展望台があり、この場所から東京湾、神奈川などの景色が一望できます。その景色は「ちば眺望100選」にも選ばれるほどです。しかし観光地としての木更津は無に等しいのです。ここ太田山公園は、木更津歴史文化財の宝庫です。しかし、お客は素通りの影の観光地となっています。そして、木更津市の施政方針に大型クルーズ船の寄港推進、金のすず国宝化運動等が掲げられ、今後更に多くの観光客が見込まれますが、これがみな素通りです、本当にもったいない話です。</p> <p>また、ここ太田山公園は、災害が生じた際の広域避難場所としての機能もあります。東日本大震災並みの大津波が来たら即太田山です。</p> <p>木更津市では年3回この公園の整備を行っていますが、ほとんど人が踏み入れられないくらい草ボーボーの公園になっています。昨年1年これを補填し、生まれ変わったようにきれいになりました。しかし公園の認知に至らず。</p> <p>そこで、市民に太田山公園を広く認知してもらい、本来の公園の機能を回復する。そのためには文化的事業が必要不可欠大事なものになってきます。また、今の子供は屋内型なので、特にロープネット活用によりプレーパークとしての機能を持たせ子供に、屋内から屋外へ呼び出し冒険心を育てる。</p>		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	<p>環境整備：毎月一回 文化的事業（歴史散歩、植物観察会、写生会）：春夏秋冬各一回、 プレーパーク設置：毎月一回</p>		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	<p>単に公園内の清掃を行うだけではなく、きれいになった太田山公園・恋の森で、親子写生大会や親子植物観察会、太田山でのきさらぎ歴史散歩等のイベントを開催し、文化的事業の拡大発展によって、この公園が持つ素晴らしさと市民にPR、本来の子供の遊べる公園にする。教育委員会、各学校、町内会子供会の協賛を得る。</p>		
来年度以降の事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	<p>環境整備：毎月一回 文化的事業（歴史散歩、植物観察会、写生会）：春夏秋冬各一回、 プレーパーク設置：毎月一回</p>		
過去の活動実績	<p>令和元年 毎月一回：公園の草刈整備。 5月・10月：太田山文化財巡り、植物観察会、写生大会</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 1

事業名称	市民ボランティアによる「太田山公園・恋の森」活用のための文化的事業と整備事業		
団体名 (構成人数)	太田山公園・恋の森をきれいにする会 (23名)	代表者	加瀬 隆

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		賃借料	660,036	刈払機(2,757円×3機×12回) チェーンソー(13,032円×2機×2回) 自走式芝刈機(22,056円×2機×6回) 軽トラック(2,214円×1台×12回) 掃除用具(8,833円×12回) ロープネット(3,095円×3セット×12回)
寄付金	150,151				
会費	100,000		報償費	20,000	文化的事業講師謝礼
			印刷製本費	48,465	資料印刷等
			消耗品費	15,000	事務用品、用紙等
			保険料	6,650	ボランティア保険
合計	750,151		合計	750,151	

事業名称	郷学「至徳堂」の広報・保全活動		
団体名 (構成人数)	至徳堂を知る会 (12名)	代表者	亀田 慎
事業の内容	<p>昨年度、一昨年度の木更津協働のまちづくり活動の継続事業として旧高柳村を中心に住民への広報活動を市内全域に広げたい。具体的には、小学生を対象に、至徳堂を中心に木更津の歴史を描いた紙芝居を作成する。又バスを利用したり、スタンプラリーなどでの史跡巡りを企画し、文化都市木更津に誇りを持ってもらえるような啓蒙活動を推進する。 至徳堂関連の史跡の継続的な保全・整備を行う。</p>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 審査基準： 「公益性・実現性」 </div>			
事業の必要性と目的	<p>木更津市民に生まれ育ったこの地域の歴史を知り、いかに文化の中心地であったかを再認識し、地域を活性化させる一助としたい。郷学至徳堂の生い立ちとそこから輩出され先人たちの足跡を知ることが大きな足掛かりとなりうる。木更津市が推進している「オーガニックシティ木更津」の一翼を担える事業と確信する。</p>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 審査基準： 「公益性」 </div>			
スケジュール	<p>1) 5月の巖根こどもフェスティバルや12月の木更津市生涯学習フェスティバルの場を活用して、スタンプラリー等の楽しい愉快的企画を盛り込んで至徳堂の存在を紹介する。 2) 制作した紙芝居を活用し、次年度以降にもつなげていきたい 3) 昨年に引き続き、公民館主催の文化祭(10月～11月)や各種文化活動をしている団体などに講演を行う。 4) 至徳堂に関する遺跡や至徳堂ゆかりの人物の足跡をたどる見学会の開催(2回/年) 5) 銚子塚古墳の至徳堂跡地や史跡の草刈りなどの整備(4回/年)</p>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 審査基準： 「実現性」 </div>			
事業の特色	<p>至徳堂の歴史に関する広報活動と啓蒙活動を継続させる体制を整える。さらに銚子塚周辺の保全・整備は市側の協力を得ながら至徳堂を知る会が中心になって推進する。</p>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 審査基準： 「独創性」 </div>			
来年度以降の事業展開予定	<p>スケジュール1)～5)の事業を継続する。</p>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 審査基準： 「発展性・自立性」 </div>			
過去の活動実績	<p>至徳堂を知る会主催の5月の巖根こどもフェスティバルや12月の木更津市生涯学習フェスティバルでのスタンプラリー 郷学「至徳堂」に関する講演 史跡巡り見学会 至徳堂跡地草取りなどの整備</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 2

事業名称	郷学「至徳堂」の広報・保全活動		
団体名 (構成人数)	至徳堂を知る会 (12名)	代表者	亀田 慎

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	100,000		報償費	20,000	外部講師謝礼、イベント協力者記念品(5月の蔵根こどもフェスティバル、木更津市生涯学習フェスティバル等)
自己資金	20,000	至徳堂を知る会	旅費	5,000	外部講師(歴史研究者など)の旅費、交通費
寄付金	25,000	町内商店、事業者、町内個人他の寄付	消耗品費	30,000	事務用品、コピー、会議・講演資料等
雑収入	5,000	講演料等	印刷製本費	20,000	ポスター・チラシ等や活動報告書等の作成
			通信運搬費	5,000	切手・はがき代等
			保険料	10,000	傷害保険、賠償責任保険料(イベント参加者)
			使用料・賃借料	20,000	イベントや至徳堂跡地の清掃作業等の発生ごみ処理代、会議室使用料等
			備品	40,000	関連遺跡説明看板設置(1ヶ所)と手直し
合計	150,000		合計	150,000	

<p>事業名称</p>	<p>笑顔カフェ</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>笑顔カフェ (4名)</p>	<p>代表者</p>	<p>上原 学</p>
<p>事業の内容</p>	<p>笑顔カフェは、認知症カフェとして活動しています。認知症の方とご家族、また地域の方も一緒につろぎながらリフレッシュできる場として、『笑顔カフェ』を開催しています。笑顔カフェの開催内容は、お店のカフェーを利用し『笑顔カフェ』用に300円でお菓子とドリンクを用意して頂き、それを頂きながら色々な話や参加者同士の交流を行っています。また、専門職(木更津市北部地域包括支援センターの全面的なバックアップ)が認知症という病気のことや介護の仕方などの相談にも対応しています。その他にも皆さんの関心のあるテーマで体験型の講師をお呼びし自宅でも出来る認知症の予防なども広めていきたいと考えております。</p> <p>①えっちゃん家 in たんぼはうすは、毎月第2(木)14:00~16:00に開催しています。平成28年3月から始め令和2年3月で4年を迎え、引き続き開催していきます。Withリスの助 in せんねんの木は、毎月第3(月)14:00~16:00に開催しています。平成30年から始め令和2年3月で2年を迎えますが、残念ながらお店のスタッフボランティアの都合で令和2年3月が最終回となります。</p> <p>②居酒屋カフェは、令和元年度の本事業の支援を受け、初めて開催したイベントカフェです。老人ホームの地域交流スペースをお借りし、居酒屋気分が出せるように暖簾やお盆、焼き鳥など準備し、認知症の本人や家族がもてなす側にまわりいつもと違う環境を楽しんでもらう機会を作りました。大変好評をいただき、今年度も継続していきたいと考えています。</p> <p>さらに、新たなイベントカフェとして、寄席カフェの開催を考えています。笑いは免疫力をアップさせるなど何事にも良い効果があり、認知症の方へも良い刺激となることから、大いに笑っていただけるカフェとします。</p> <p>③寄席カフェについては、噺家をお呼びし老人センターの大広間をお借りして、落語の寄席を開催します。入り口で袋菓子のつかみ取りをして席についてもらう等、カフェ気分の中で落語を楽しみたいと考えております。</p> <p>また、笑顔カフェへ参加する方は、定着しておりますが、新規の方にも来て頂けるようにPR活動も随時行っています。清見台公民館で行われた文化祭でミニ笑顔カフェを開催したところ、60名の来客があり大変好評をいただきました。継続開催や新規開催要望を受け、令和2年度は、1ヶ所(withリスの助 in せんねんの木)での活動を終えますが、新たに“清見台公民館”“ウエルシア祇園店”でも『笑顔カフェ』を始める予定となっています。</p> <p>④清見台公民館、ウエルシア祇園店での笑顔カフェの開催</p> <p>⑤PR活動として、今後も公民館の文化祭などで『笑顔カフェ(認知症カフェ)』のミニカフェ開催も要望に合わせて行っていきます。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>世の中に認知症という病気が理解され始めているものの、認知症の人とご家族は、地域に自分の家族が認知症であり困った行動があることなど発信しにくいです。どこに行くにも「ここで大声を出したらどうしよう…」「いろいろ興味本位に聞いて欲しくない…」など家族の気持ちは、①戸惑い・否定から始まります。物事を受容するには、4つのステップ(①戸惑い・否定 ②拒絶 ③割り切り ④受容)があります。『笑顔カフェ』は、このスムーズに進まない心理ステップに寄り添いながら、日々の介護に係る中でのリフレッシュの場、出来ること・必要なことを一緒に安心して行える場となっています。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>①えっちゃん家 in たんぼはうすは、毎月第2(木)14:00~16:00開催</p> <p>②居酒屋カフェは年2回(4~6ヶ月に1回)、③寄席カフェは、年1回、規模を大きくイベント的に開催予定。開催時期は、開催施設等協議の上決定。</p> <p>④“清見台公民館”“ウエルシア祇園店”は、それぞれ月1回程度定例開催していきます(毎回10-15名程度の参加を想定)。今後開催タイミングを決定します。</p> <p>⑤公民館の文化祭などで『笑顔カフェ(認知症カフェ)』のPRとしてミニカフェ開催を要望に合わせて行っていきます。</p>		

審査基準：
「公益性・実現性」

審査基準：
「公益性」

審査基準：
「実現性」

事業名称	笑顔カフェ		
団体名 (構成人数)	笑顔カフェ (4名)	代表者	上原 学
事業の特色	<p>認知症施策推進総合戦略(新レゾナンス)には七つの柱があり、その4つめに『認知症の人の介護者への支援』があり「認知症カフェ」を開催することが求められています。具体的には、認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症初期集中支援チーム等による早期診断・早期対応を行うほか、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進。また、家族向けの認知症介護教室等の取り組みについて、好事例を収集して全国に紹介し、その普及を進めると厚生労働省が掲げており、この国家戦略の一端を担っています。</p>		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	<p>現在と同様に、①えっちゃん家 in たんぼはうすは、毎月第2(木)14:00~16:00開催、②居酒屋カフェと③寄席カフェは、年数回イベント的に開催、④“清見台公民館” “ウェルシア祇園店”は、それぞれ月1回程度定例開催、⑤PR活動は文化祭などでミニ笑顔カフェを開催していきます。また、来場者の声を参考に事業の改善・展開を検討していきます。</p>		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	<p>私たちは現在2ヶ所で『笑顔カフェ』を開催しています。 ①えっちゃん家 in たんぼはうすは、毎月第2(木)14:00~16:00開催で平成28年3月から始め、令和2年3月で4周年を迎えます。 withリスの助 in せんねんの木は、毎月第3(月)14:00~16:00開催で平成30年から始め、令和2年3月で2周年を迎えます。 ②『居酒屋カフェ』は、R1.10.27に開催し、33名の方の参加があり、焼き鳥などの居酒屋気分を満喫し、高齢女性も10人以上召し上がったりと、参加者からも「一人で食べるよりたくさんの方と楽しみ、食が進んでびっくりした!」との感想もありました。大変好評を頂き、令和元年3月22日(日)にもう1度『居酒屋カフェ』開催予定です。 ③R1.10.26には、清見台公民館文化祭に『笑顔カフェ』ミニカフェを開催し60名の方が参加しました。 オープンガ、周年祭、木更津市家族介護教室とコボ、ボランティアによる演奏会などイベント的な開催時は、20~30名の方が参加。その他では、毎回10名程度の参加があり、ゆっくり参加者同士でおしゃべりを楽しんでおります。</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 3

事業名称	笑顔カフェ		
団体名 (構成人数)	笑顔カフェ (4名)	代表者	上原 学

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		材料費	145,000	認知症対策としての ワークショップ に係る材料代等
参加費	254,000	笑顔カフェセット 代(たんぼはうす) (10名×12ヶ月× 300円×1ヶ所) 笑顔カフェセット 代(清見台等) (15名×12ヶ月× 300円×2ヶ所) 居酒屋カフェ(50名 ×500円×2回) 寄席カフェ(60名× 1,000円×1回)	食糧費	94,000	茶菓子、お茶、紅 茶、コーヒー、ミ ルク、砂糖 等
			報償費	415,000	外部講師謝礼(15,000 円×3ヶ所) 演奏者謝礼(30,000 円) 寄席(200,000円) 笑顔カフェセット (10名×12ヶ月×300 円×1ヶ所) (15名×12ヶ月×300 円×1ヶ所) 居酒屋カフェ協力者 (50名×500円×2回)
			賃借料	20,000	イベント会場代(3 回)
			消耗品費	50,000	出席カード、イン ク、珈琲用ペー パー、カップ 等
			備品費	30,000	PRに関するのぼり DVD購入 コーヒーメーカー 記録及び広報活動 のためのツール等
合計	754,000		合計	754,000	

事業名称	介護福祉に関する研修会事業		
団体名 (構成人数)	介護福祉チーム・ラボ木更津 (15名)	代表者	荒木 太郎
事業の内容	<p>介護福祉チームラボ木更津は介護力で地域の未来は変わると言う理念のもと、木更津地域の介護福祉に関わる人や市民、介護を行う家族の勉強の場・交流の場を創出するため福祉等に関する講師を招いて研修会を開催します。</p> <p>これまでも介護職員を対象とした研修会を開催し、病気の知識など介護をする上で必要な知識について幅広く研修を行い、介護に携わる方のスキルアップを行ってきましたが、本事業においては、介護を必要とする方の家族と介護に関わる市民も対象として、スキルアップを行い、昨今の介護の課題に応じた内容を検討します。また、10月以降に行う研修会後には、これまでの研修等で得た知識を含め、市内の介護を行う家族の方などに向けた介護に役立つ豆知識等を掲載したペーパーの作成配布を目指します。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 審査基準： 「公益性・実現性」 </div>			
事業の必要性と目的	<p>現在、日本国民の4人に1人以上が高齢者となり、本市においても、高齢化率は27%を超えている状況にあります。また、本市の介護を必要とする人は平成37年度には7700人と平成27年度と比較して2300人ほど増加すると予想されています。しかし、介護人材の確保についてはまだまだ課題があり、千葉県、木更津市においても尽力しているところだと思います。その中で、現在介護を行っている市民のスキルアップを図る事は、在宅介護の質を上げ、介護職員の人材不足が懸念される介護福祉業界の一助になります。</p> <p>本事業を通して、支援を必要としている方の家族や現在介護職として働いている方が知見を深めることで、市民の介護福祉に関する知識スキルの向上につながり、避けられない高齢人口の増加に対して、介護をできる人間の育成ができ、協働のまちづくりに資するものだと考えております。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 審査基準： 「公益性」 </div>			
スケジュール	<p>令和2年 5月 第35回研修会 7月 第36回研修会 10月 第37回研修会 令和3年 3月 第38回研修会</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 審査基準： 「実現性」 </div>			
事業の特色	<p>本会では、介護福祉関係者がチームになって、課題解決に取り組む場にもなっています。介護を必要とする方の家族や介護を考える市民が本会が主催する研修会に参加することにより、介護をする人、介護を必要とする人の交流も生まれます。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 審査基準： 「独創性」 </div>			
来年度以降の事業展開予定	<p>研修会活動を中心に、市民活動支援センターみらいラボを拠点とし、他職種とコミュニティーとつながりを持ちコラボレーションができるようにし、介護に関わる方の話を広げ、介護福祉が抱える課題解決に向けた活動に取り組みます。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 審査基準： 「発展性・自立性」 </div>			
過去の活動実績	<p>ラボフェス2015 2016 2017 2018 2019 33回の研修会 認知症メモリーウォークイン木更津2018 2019 介護福祉チームラボ就職説明会2019</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 4

事業名称	介護福祉に関する研修会事業		
団体名 (構成人数)	介護福祉チーム・ラボ木更津 (15名)	代表者	荒木 太郎

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	144,000		報償費	100,000	研修講師料 50,000×2
会費	30,000	1,000円×30事業所	旅費	6,000	3,000×2
自己資金	42,000		消耗品費	20,000	研修会開催に係る 事務用品等
			印刷製本費	60,000	研修資料印刷 市 民向けペーパー作 成
			賃借料	30,000	研修用介護機器レ ンタル代
合計	216,000		合計	216,000	

事業名称	市民と共に、房総の地域文化の発掘、発展に努める事業		
団体名 (構成人数)	房総の地域文化を学ぶ会 (68名)	代表者	金子 馨
事業の内容	<p>月に1回、一般市民公開で、中央公民館等に於いて木更津を起点とした房総文化に関わる専門家を招き、講演会を開いて房総の歴史や文化を学び、これに関わる新しい発掘、そして新しい房総の文化の視点・指針を見つけます。また、過去を見つめ直すことによって新しい木更津の未来を発見します。</p> <p>そのために、講演後に学んだ歴史や文化を木更津にどのような関わりがあるかアンケートをとり、木更津市にある歴史文化をどのようにまちづくりに活かしていくかを学び考え、語り合える場を提供する。</p> <p>そして、話し合いの結果で有意義なものについては、年4回発行している「房総文化」において、内容を掲載し歴史や文化を活かしたまちづくりに寄与する。新たな文化資産発掘の場合は市史編纂委員、研究者に提供するなどしてこれを生かす。</p> <p>木更津は文化都市です、房総文化の中心となるよう、市民一体となって、文化都市木更津のまちづくり、市民の文化意識の向上に努めるため、過去の講演資料を製本化し木更津図書館への寄贈を考えております。</p> <p>バスによる移動研修を年2回実施し、実体験のなかで、市外の先進地域を含め、文化財の利活用を学び、木更津市のまちづくりに生かしたい。</p>		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と目的	<p>房総、木更津にはまだまだ知らない歴史や文化が眠っています。これを市民の皆様と一緒に掘り起こし、学ぶことは、木更津市史の編纂事業が進んでいる中、木更津市民の文化意識素養の高揚を図ること、また、郷土愛を育むことに繋がり、ごく自然にその必要性が認められると思います。</p> <p>近年、アクアラインの開通により東京・横浜方面から人口の流入があり、新しい木更津市民が増加しています。そのような人たちに木更津の歴史文化を通じてまちづくりに参加してもらうことが最終的な目的となります。</p> <p>これにより、新旧住民の交流も生まれ、そこから未来に向けた新しい木更津が見えてくると考えています。忘れてはいけません、木更津は古くより歴史ロマンある文化都市なのです。この伝統を文化都市木更津のまちづくりに生かしていきたいと思っています。そして世代を超えて大人から子供へこの歴史文化を引き継ぐことは極めて重要なことです。シニアだけの文化にしてはいけません、そのためにも講演資料を製本化して図書館に寄贈することの意味合いが自然と生まれてきます。</p>		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	<p>月1回、歴史・文化専門講師等を招いて、講演会を開催。</p> <p>9・10月頃には移動研修を実施したい。</p> <p>講演会前に会長・幹事長及び幹事13名で資料等の印刷、会場設営等準備。</p>		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	<p>全ての講演会は、ビデオ録画しており、再活用が可能であり、講演会の広告は各新聞、房総ファミリアを含め積極的に行う。</p> <p>この会には数多くの文化に携わっている方が参加しており、歴史や文化に触れる機会が充実しています。従って、本会は未知の異なる考えや見方に出会い、世代を超え生涯をかけて学ぶ場であり、これが人づくり、まちづくりにつながります。これは毎回70名余の多くの参加者が証明しています。</p>		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の事業展開予定	<p>この事業を発展継続させていく収入として、引き続き、年会費3千円を徴収し、単なるシニア学習講座にならないように、市民の方を巻き込んだ事業展開にしたいと考えております。また、今年度で本事業は7年目に当たるため、過去の講演資料を昨年を引き続きまとめ、製本化、これを図書館に寄贈またCD化により広く市民に宣伝、協働のまちづくりの一体化を図ります。</p> <p>移動研修年二回実施、実体験の中で木更津歴史の共有化・具現化を狙いとします。</p>		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	<p>平成25年(2013)12月より毎月一回、房総文化歴史講座・講演会実施。また「房総文化」は過去10号まで発行。</p> <p>各公共新聞への講演会開催日宣伝。毎年四月に教育長を迎えて総会実施。</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 5

事業名称	市民と共に、房総の地域文化の発掘、発展に努める事業		
団体名 (構成人数)	房総の地域文化を学ぶ会 (68名)	代表者	金子 馨

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		使用料	14,400	講演会会場使用料 14,400円 (300円×4h×12ヶ月)
会費	204,000	68名×3,000円	報償費	180,000	講師謝礼(交通 費・駐車場代金 含)約15,000円/人 ×12人
自己資金(会費)	50,000		旅費	300,000	移動研修バス代 (150,000円×2回)
			消耗品費	53,600	コピー用紙等
			印刷製本費	196,000	過去の講演資料の 製本化(H28・29年 度版)70,000円/冊 ×2年度分 資料印刷代56,000 円
			通信費	10,000	郵送代
合計	754,000		合計	754,000	

事業名称	都市と農村との交流を図る地域農業活性化事業		
団体名 (構成人数)	大地の恵み (5名)	代表者	宗政 博光
事業の内容	<p>都市と農村との交流事業及び観光交流人口拡大事業 木更津市の新たな交流の拠点として圏央道東インターに隣接する道の駅「木更津うまくたの里」が平成29年オープンし、週末などは多くの人達で賑っている。地域にとって大きなポテンシャルを持つ木更津東インター及び道の駅を最大限に活用した都市と農村との交流事業、観光農業を取り組むものである。</p> <p>①地元農産物(枝豆等)の収穫体験 道の駅周辺には良好な農地が広がり、大型機械により米作栽培等が行われている。しかし、大型機械の搬出入、耕作に不向きな不整形地や小区画地などは 耕作放棄地として十分な活用がされていないのが現状である。 そこで、これらの農地を活用し、手軽に農業体験の場として都市部の人達に開放することより、都市と農村との交流にも繋がり、さらには地域の魅力アップに貢献できる。 特に、道の駅に近い当該農地の立地条件を活かし、道の駅に立ち寄った人達が、手軽に出来る地元農産物(枝豆等)の収穫体験を行い、採れたての本当の味を知って頂くと同時に大地の恵みを体感してもらおう。</p> <p>②農産物の加工体験 地元で栽培・生産された農産物の有効利用を図るため、加工所を整備し特産品づくりを目指していく。当面は、これまで行ってきた味噌づくりの体験でのノウハウを基に、手作りの味噌づくり体験・糎作りの加工体験・その他大豆に係る加工体験を実施する。同時に、6次産業化に着目した大豆の加工品開発・製造に取り組んでいく。</p>		
事業の必要性と目的	<p>木更津市の新たな交流の拠点として圏央道東インターに隣接する道の駅「木更津うまくたの里」が平成29年にオープンし、週末などは多くの人達で賑っているものの、これら人々が地域に交流人口として入り込んできているかは疑問である。 現在、当該地域においては、観光農園としてブルーベリー園等があるが、多くの人達を引き込む施設が乏しいのが現状である。 そこで、交流人口を意識した体験型観光農園や地元農産物の加工体験型施設を整備し、都市と農村とが交流する場として地域の活性化に繋げようとするものである。 同時に、耕作放棄地が目立ち有害鳥獣の被害や環境等への悪化が懸念される中で、ふるさとの景観維持が田舎らしさの魅力アップにも繋がるものである。</p>		
スケジュール	<p>①地元農産物(枝豆等)の収穫体験 6月 ほ場の耕運 地大豆の種まき 7月 ほ場の中耕 草取り 8月 害虫駆除 9月 パンフレットの作成・道の駅等への設置 収穫体験・イベントの検討 10月 枝豆収穫体験(枝豆のオーナー制・枝豆もぎ取り体験) 収穫イベントの開催</p> <p>②地元農産物加工体験 2月 麴作り体験参加者の募集開始(道の駅とのコラボ) 3月上旬 地域産のコシヒカリを原材料とした麴作り体験 3月上旬 手作り味噌体験、樽詰め、味噌の保管</p>		

審査基準：
「公益性・実現性」

審査基準：
「公益性」

審査基準：
「実現性」

事業名称	都市と農村との交流を図る地域農業活性化事業		
団体名 (構成人数)	大地の恵み (5名)	代表者	宗政 博光
事業の特色 審査基準： 「独創性」	<p>①地元農産物(枝豆等)の収穫体験 道の駅に近い当該農地の立地条件を活かし、道の駅からの情報発信等により、手軽に立ち寄れる地元農産物(枝豆等)の収穫体験を行うとともに道の駅でも枝豆もぎ取り体験を行い、採れたての本当の味を知って頂くこととする。 さらには、地大豆など地域の農産物の素晴らしさを知って頂き、木更津市富来田の味としてリピーターを確保し地域の活性化にも繋げたい。</p> <p>②農産物の加工体験 道の駅の集客力・魅力アップにつなげるためにコミュニティースペースを利用し味噌づくりの体験・麴づくりの加工体験を実施する。</p>		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	<p>道の駅との連携事業や観光交流人口拡大を意識した事業展開を予定していく。 そのため、道の駅や我々の大地の恵みが共に魅力アップに繋げ、多くの人達に喜んでもらえる事業を実施し、交流人口の拡大、地域の活性化を図っていく。 本年度は、上記事業展開をするものの、観光・交流の視点から様々なニーズを把握して地域の潤いに繋げていきたい。 現在、千葉大学園芸学部と交流を行い、情報や意見交換をしているところであり、大学の持つノウハウや情報を頂き、地域の活性化や、特産品開発につなげていき、支援金の交付を受けなくなった後についても、資金面で自立できるよう成長していきたい。 また、道の駅来訪者のニーズ、動向などについて同駅に協力を頂き、魅力ある事業を展開したい。</p>		
過去の活動実績	<p>平成30年4月 「大地の恵み」発足 規約制定 平成31年4月29日 道の駅での麴の甘酒づくり体験 元年5月26日 1回目圃場耕耘 元年6月1日 枝豆オーナーの案内発送・道の駅観光案内にチラシ配布 元年6月8日・9日 圃場の草刈、2回目耕耘、鶏糞撒き 元年6月16日 圃場の廻りへのネット張り 元年6月22日・23日 大豆種まき 元年7月10日・11日 圃場の畝の耕耘(管理機による畝の草取り) 元年7月29日・30日 圃場の畝の耕耘(管理機による畝の草取り) 元年8月5日・6日 圃場の株間の草刈り(シルバー人材による草刈り) 元年9月1日・2日 圃場の廻りの草刈り 元年9月21日 収穫の案内発送(台風の影響により収穫祭は中止) 元年10月5日 圃場の廻りの草刈り 元年10月14日 オーナーによる大豆の収穫 元年10月20日 道の駅での枝豆(白富来)のもぎ取り体験 元年11月30日・12月1日 赤富来(味噌用)・白富来の刈取り(シルバー人材)、ポッチ作り 2年1月17日 赤富来(味噌用)・白富来の脱穀 2年2月1日 手作り味噌体験の案内発送と道の駅観光案内での掲示 2年3月5日 麴づくり予定 2年3月7日 手作り味噌体験予定</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 6

事業名称	都市と農村との交流を図る地域農業活性化事業		
団体名 (構成人数)	大地の恵み (5名)	代表者	宗政 博光

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		使用料	80,000	圃場・味噌・麴作 り会場
収穫体験料	100,000		委託料	300,000	草取り・収穫作業 (シルバー人材 等)
農産物加工体験料	150,000		原材料費	150,000	米、麴菌、塩
自己資金	50,000		燃料費	40,000	ガソリン、軽油、混合 ガソリン
			消耗品費	100,000	コピー用紙・カー トリッジ等
			通信費	30,000	切手代等
			備品	100,000	味噌用樽・釜等
合計	800,000		合計	800,000	

<p>事業名称</p>	<p>高齢者の「運動量を増やす活動及び認知症予防」の為にボール運動活動及び普及事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>生き生きボール運動の会 (15名)</p>	<p>代表者</p>	<p>斉藤 きよ子</p>
<p>事業の内容</p>	<p>15cmのボールを使って、音楽に合わせて無理なく楽しく出来る運動です。 事業内容は下記のとおり (1) 週一回のボール運動の実施(2会場) (2) ボールを使った筋トレ・ストレッチ・有酸素運動を行い体力の向上を目指す (3) イベントや市内10公民館・地区役員の方へのPRや普及活動の実施 (4) 各地域で行なうボール運動の指導及び普及活動 (5) 指導者養成の為の講習会の実施 (6) 定期的に介護施設等へのボランティア 以上の内容を実施して、市内全域でボール運動を普及させて行く。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>超高齢化社会を迎え、医療、福祉に掛かる負担は今後も増加していくことが想定されています。その中で、高齢者が「介護状態にはならない」「認知症にはならない」等、未然防止が必要となります。 木更津市に於いても「健康ささらづ21」で掲げられたとおり「身体活動・運動量を増やす取り組み」や介護予防運動については、ささらづ筋力アップ体操が進んでいると思います。ボール運動はボール遊びの利点を生かして、楽しく無理のない運動で健康作りが出来ます。よって、高齢者の運動量を増やす事や、認知機能の改善を図ることに貢献していきます、及び市の介護予防事業に、少しでも役立てられるように活動していきます。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>令和2年 4月～ 毎週一回、生き生きボール運動 (金田地区交流センター及び桜井公民館) 令和2年 4月～ 市内10公民館及び地域へのPR活動 令和2年 6月～9月 指導者養成講座開催 令和2年10月～11月 各種のイベント参加 (君津圏域公開フォーラム・オーガニックフェスタ等)</p>		
<p>事業の特色</p>	<p>ボールを使った運動は、子供の運動教育から一般の運動等いろいろありますが、系統立てた運動プログラムはありませんでした。今回ボールを使って音楽に合わせて、楽しく・笑って運動して、知らない間に筋トレ・ストレッチ・有酸素運動になっている運動法です。このボール運動をしっかりと地元で実施して行き、地域の皆さんに体験して頂き、各地域で行なう事で高齢者の活性化に繋がります。ボール運動は、ボールが指先を刺激する事、動くボールを扱う事、難しく出来ない動作をする等により、脳が活性化され認知症予防となります。日本のどこにもやっていない、本市でのみ行われている運動です。将来は、日本に先駆けて、ボール運動を取り入れた介護予防運動にしたい。</p>		
<p>来年度以降の事業展開予定</p>	<p>本年度は、指導者育成とボール運動を知ってもらう為のPR活動を中心に実施し、来年度は地域に一つでも多くの活動拠点を作っていきます。ボール運動の人を増やすポイントとして、年1回・地区対抗のボール運動会を開催して、モチベーションアップを図ります。地区対抗のボール運動会を大々的に行うことで、注目を集めて参加者を増やしていく。</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 7

事業名称	高齢者の「運動量を増やす活動及び認知症予防」の為にボール運動活動及び普及事業		
団体名 (構成人数)	生き生きボール運動の会 (15名)	代表者	斉藤 きよ子
過去の活動実績	<p>ボール運動は、平成30年1月からスタートしました。</p> <p>生涯歩ける身体作りの会 (毎月一回) 平成30年1月～ 参加者15名程度 宮野指圧鍼灸治療院の宮野院長が開催している勉強会 健康についての勉強とボール運動で体力づくり</p> <p>金田瓜倉地区のいくべ会 (毎月一回) 平成30年2月～ 参加者15名程度 瓜倉地区の老人会、30分間ボール運動</p> <p>文京公民館の自主事業 (毎月二回) 平成30年5月～平成31年3月まで 文京地区の方を中心に、ボール運動を公民館自主事業で実施</p> <p>金田地域交流センター (毎週一回) 平成31年4月～ 参加者15名程度 新しく金田地域交流センターが出来ましたので、文京公民館から引き続き毎週一回実施しています。</p> <p>君津圏域公開フォーラム参加 2019年11月 つながる・ひろがる市原の輪フェスタ2020年冬 2020年1月</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 7

事業名称	高齢者の「運動量を増やす活動及び認知症予防」の為にボール運動活動及び普及事業		
団体名 (構成人数)	生き生きボール運動の会 (15名)	代表者	斉藤 きよ子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	165,000		報償費	80,000	養成講座講師派遣費 10,000円×8回
指導者養成講座参加費	60,000	3,000円×20人	消耗品費	40,000	連絡用資料、講習原稿作成、ボール15cm (1,000円×30個)
自己資金 (会費)	15,000	1,000円×15人	印刷製本費	70,000	ボール運動資料・普及活動チラシ印刷
寄付金 (有志)	8,000		広告費	50,000	タウン誌掲載等
			通信運搬費	3,000	会員連絡・養成講座参加募集連絡用切手代等
			使用料	5,000	部屋代
合計	248,000		合計	248,000	

事業名称	道の駅周辺環境整備事業		
団体名 (構成人数)	道の駅周辺活性化ボランティア (11名)	代表者	東 正一
事業の内容	<p>圏央道の木更津東IC付近にある「道の駅木更津 うまくたの里」の周辺は、田園風景が広がっており、道の駅を訪れた方にとっては、玄関口となります。</p> <p>下内橋交差点付近と湯名交差点付近は、地元自治会が、花壇を中心に環境整備に取り組んでいますが、その間に、雑草や雑木が繁茂し、竹林が形成されている箇所があり、これらが歩道にはみ出している状況です。</p> <p>これらのことから、観光振興、交通安全の観点からも、伐採整備する必要があり、行政の手だけでは、整備が進まない状況であることから、我々ボランティアが実施することで、素早い対応ができると考え、平成31年度の本事業の採択を受け、歩道沿いの雑草や竹を伐採しました。</p> <p>しかしながら、依然として、木更津市の玄関口にあたる木更津東IC正面に広大な竹林が形成され、景観が損なわれている状況です。</p> <p>そこで、木更津東ICの真正面にあたる竹林全体の半分の伐採と、残された雑木の伐採、木更津東ICで降りた方から見える位置に花の植付けを行い、景観の向上を図る環境事業を実施します。</p> <p>なお、作業実施予定場所は、2級河川沿いであることから、引き続き、県に作業許可を得て実施します。</p>		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と目的	<p>平成29年に木更津市初の道の駅としてオープンした「道の駅木更津 うまくたの里」には、地元野菜等を販売する直売所や飲食店があり、土日には多くの観光客が訪れ、利用されています。また、令和2年2月からは、高速道路から当施設への一時退出を可能とする「賢い料金」の試行実験が開始されることから、さらなる来場者の増加が見込まれます。</p> <p>しかしながら、木更津市の玄関口となっている木更津東IC正面に竹林が形成され、景観が損なわれているほか、道路交通の観点においても影響を及ぼしています。</p> <p>また、2級河川の七曲川沿いに位置するため、枯れた竹が洪水時に下流に流され、東京湾を汚染する被害も問題となっています。</p> <p>平成31年度事業に引き続き、点から線そして周辺一帯を、おもてなしの気持ちで環境整備活動に努め、将来的には整地に伴って生じた土地に、街路樹の植樹や観光資源として、地域活性化のための有効活用に繋げます。</p>		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	4月～ 竹の伐採・処理、沿道清掃 6月～ 雑木の伐採・処理 9月～ 花の植付け		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	緑の豊かな地域で、今後の緑化方針と空き地の有効利用が期待される。 今まで個人で対処していた作業を、組織化することにより、より効率的な作業を行える。		
審査基準： 「独創性」			
来年度以降の事業展開予定	木更津東IC正面の竹林の残り半分の伐採を実施します。 伐採した跡地の有効活用を検討します。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	下内橋交差点の花壇整備 歩道の草刈りと処分 平成31年度の本事業の採択を受け、歩道沿いの雑草・竹の伐採と処分		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 8

事業名称	道の駅周辺環境整備事業		
団体名 (構成人数)	道の駅周辺活性化ボランティア (11名)	代表者	東 正一

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		消耗品費	50,000	替刃、ロープ等
会費	33,000	3,000円×11名	印刷製本費	10,000	会議資料、案内文 等
寄付金	200,000	沿道企業より	委託費	430,000	竹・木の伐採、処 分
自己資金	67,000		賃借料	200,000	重機、トラック等
			燃料費	70,000	重機・トラック燃 料
			原材料費	20,000	花の苗
			食糧費	20,000	作業時の飲物
合計	800,000		合計	800,000	

事業名称	木更津波岡子ども食堂		
団体名 (構成人数)	木更津波岡子ども食堂実行委員会 (21名)	代表者	堀切 辰也
事業の内容	<p>子ども食堂の事業は、平成29年8月31日から開始し、毎月第2・第4金曜日の夕方に開催し、これまで57回(2月7日現在)を開催しています。会場は、耐震改修期間を除き八幡台公民館で開催し、工事中は、波岡公民館で開催しました。</p> <p>全国的にも広がりを見せている子ども食堂ですが、木更津波岡子ども食堂では、子どもがひとりでも安心して来られ、無料で食事を提供することも食堂の運営(大人は300円の有料)を行っています(夜の参加には保護者の送迎が必要)。この事業は、子どもに限定しないで親やお年寄りなど地域の方が「どなたでも」自由に参加でき、木更津市八幡台地区、波岡地区を中心に、毎回50～100人の子ども、親、お年寄りなどが参加しています。また、スタッフもボランティアを含め15～25人が常時参加しています。</p> <p>この事業に関しては、木更津市社会福祉協議会の後援を受け、保険は、子ども食堂保険に加入しています。</p> <p><令和2年の事業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年～令和元年の事業を継続します。 ・借り上げた子ども食堂農園で野菜を作り、収穫した野菜を使用して料理を提供します。また、この野菜を使い、親子料理教室を開催し、野菜を作り、収穫し、調理したものを食べる食育を行います。 ・子育てで忙しいお母さんたちの料理の手助けとして、調理師や調理スタッフが調理のコツや時短料理、工夫したメニューの実習や紹介をする料理教室を行います。 ・朝の子ども食堂を開催します。規則正しい生活習慣でない小学生を少しでも減らすために、八幡台小学校と八幡台自治会の協力で小学校正門前にある八幡台自治会集会所で3回(12月実施、2月、3月開催予定)の試行を行いました。引き続き、各位の協力のもと月1回、八幡台小学校児童のみを対象に朝6時45分～7時45分に実施します。 ・3年半を迎え、スタッフの意識向上や他の子ども食堂の現状・情報を得るために講師を依頼し、講演会を行います。予定している講師は、全国子ども食堂支援センターからお願いする計画です。実施に当たり、市内の他の子ども食堂の関係者や関心のある方へ呼びかけ、希望者には参加していただきます。 		
事業の必要性と目的	<p>社会構造の変化により、経済、生活など子どもを取り巻く環境は多様化し、最近では、ひきこもり、いじめ、DV、虐待などの悲惨なニュースを多く聞きます。また、働き方も多様化し、学校、家庭以外の地域社会での第3の居場所が必要となっています。</p> <p>子どもの成長過程に必要な、様々な人との交流を通じ、地域での世代を超えた交流の機会を設けることで、社会に大きく羽ばたき、いきいきと生きる子どもの育成が期待できます。また、課題を抱えた方に対しては、地域・近所での顔見知りの人間関係の再構築から見守り、見守りから支援へとつながることを期待しています。</p> <p>これらのことを踏まえ、新たなまちづくりの一環として「おいしい」と「心地の良い居場所」を作ることで、子供だけでなく、地域全体の世代、家庭を超えて、顔の見える人間関係のきっかけとなり、子供たちを事故、事件から守る街づくりとしても役立つことが期待できます。</p> <p>利用者アンケートからは、親にとってホッとできる場所として子供たちにとっては、友達と一緒に楽しい食事ができる場所として必要性が見えてきました。また、他の地域から来ている人は、近くにも子ども食堂がほしいとの希望があり、今後子ども食堂をさらに市内に拡げてゆく必要性を感じます。</p> <p>不登校カフェ「SOUSOU」と協力して、会場の一部で相談・懇談コーナーを作っていますが、ひきこもりに限らず子育ての悩みや困りごとの相談などができる場の充実が必要です。</p>		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、第2・第4金曜日の17:30～20:00に開催し、2021年3月31日までに23回開催予定(八幡台公民館)。 ・朝の子ども食堂毎月1回実施(前日準備、朝6:45～7:45開設)し、12回八幡台自治会集会所で開催します(開催は、八幡台小学校と協議の上実施)。 ・夏休み学習会(学生ボランティアの協力)。 ・地域の子どもやお年寄りを見守る役員、機関との連携のための話し合い。 ・毎回終了後反省会を行うほか、適時、運営会議、打ち合わせ会を実施。 ・6月に子ども食堂講演会予定(講師の都合により変更有) ・年間を通して子ども食堂農園で野菜作り(ジャガイモ、サツマイモ、玉ねぎ他) ・親子料理教室(7月) ・お母さんの料理教室(8月) ・季節や年中行事に応じたお楽しみ献立の実施。 		

審査基準：
「公益性・実現性」

審査基準：
「公益性」

審査基準：
「実現性」

事業名称	木更津波岡子ども食堂		
団体名 (構成人数)	木更津波岡子ども食堂実行委員会 (21名)	代表者	堀切 辰也
事業の特色	<p>・参加者をこどもに限定せず「どなたでも」としたことにより、地域高齢者の孤食、孤立の解消の一助となっている。また、普段忙しく働き、炊事や親子団らんが少ない家庭でも、食べるということを通して、知り合い、話し合い、つながりあういい関係づくりができる。昨年の実績より、徐々に父親も来場し家族での参加が増えてきた。3月末まで4回を残しているが、10ヶ月で参加者は、1500名であるまた、学生ボランティアやスタッフを加えれば1850名を超えている(年間予測では2000人程度と思われる)。</p> <p>・こどもやお年寄りのために、調理ボランティアや運営スタッフに携わることにより生きがい創出できる。</p> <p>・市内初の子ども食堂だったこともあり、他の地域で子ども食堂をはじめの方の見学、経験の場でもあり、他地域の新規の設立支援(地域子ども食堂スタートアップ勉強会)も行っている。</p> <p>・農園での野菜作りから調理して食べるという一連の中で食べることの大切さなどを学習していく。</p> <p>・朝食を摂らない子供を減らすために、朝の子ども食堂を月に1回ではあるが実施する。</p> <p>・令和元年の災害時には、通常の子ども食堂を開放し、参加費無しの炊き出しを行った。日常において多少の食材を確保しているので電気または水があれば災害時の備えになる。</p> <p>・夏のそうめん流し、冬のお餅つきや魚料理、バイキング形式の献立など工夫を凝らした食事を提供します。</p>		
<p>審査基準: 「独創性」</p>	<p>・継続して通常の子ども食堂を毎月2回開催します。また、毎月1回朝の子ども食堂を開催します。</p> <p>・近隣地区の子ども食堂とのネットワーク構築を図ります。</p> <p>・情報の共有や寄付を頂いた食材の譲り合いによる食品ロスへの寄与、そして備品等の共有を行うことによって、備品購入に係る経費の削減を図り、地域一体となって活動の継続を目指します。</p> <p>・笑顔で生活できる地域づくり、食文化の共有などのために、こどもとおとなが一緒に料理を作り、一緒に食卓を囲める機会を作ります。</p> <p>・引き続き学習支援を行います。</p> <p>・これからもひきこもりに悩む人たちの集まり「SOUSOU」と協力して悩みを持っている方の相談コーナーの充実を図ります。</p> <p>・食育の観点から、農業体験、野菜などを自分たちで作る収穫を行う子ども食堂農園の充実を図ります。</p> <p>・ボランティアのスキルアップを目指し、学習会・講演会などの開催や参加を行います。</p> <p>・さらに、食後に雑談ができる場所を確保し、同世代や世代を越えて雑談を楽しめるようにしていきます。</p>		
<p>審査基準: 「発展性・自立性」</p>	<p>・平成29年8月31日第1回子ども食堂開催(80名参加)以降現在まで毎月2回実施し、57回開催。会場は、八幡台公民館(耐震改修工事中は波岡公民館)にて実施しました。</p> <p>・当子ども食堂代表が、地域子ども食堂スタートアップ勉強会及び実施状況の講演を君津、袖ヶ浦、金田地区で実施。その結果、当食堂の視察や情報交換が行われ、君津、富津、袖ヶ浦、金田、市原で子ども食堂が始まりました。</p> <p>・一部ではあるが、市内子ども食堂と食材の融通を行いました。</p> <p>・朝の子ども食堂の試行を行いました(3回、子供のみ参加なので無料)。</p> <p>・台風15号で炊き出しを実施しました(八幡台公民館)。</p> <p>・子ども食堂のメニューのレシピの公開や調理の相談にも乗っており、簡単メニューや料理の相談にも乗っています。食堂で食べた料理を自宅でも再現して楽しめます。</p> <p>・学生のボランティアが子供たちと遊びを通して友達づくりに貢献し、お母さんたちはゆとりを持てるひと時となっています。</p> <p>・児童民生委員、自治会、学校、公民館等と会合を持ち地域との情報共有による連携を図ってきました。</p> <p>・夏休みの学習会(昼間)をスタッフ、学生ボランティアの協力で実施しました。</p>		

令和2年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 9

事業名称	木更津波岡こども食堂		
団体名 (構成人数)	木更津波岡こども食堂実行委員会 (21名)	代表者	堀切 辰也

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	420,000		原材料費	185,000	食材費ほか
参加費	172,500	大人300円×25名× 23回	消耗品費	144,000	プレート (お盆100 枚)、包丁、鍋、 ゴミ袋、除菌液、 洗剤、マスク、ほ か
寄付金	20,000		備品費	89,000	フードプロセッ サー、炊飯器、 オーブントース ターほか
自己資金	17,500		保険料	33,000	こども食堂保険、 社会福祉協議会ボ ランティア行事保 険
			保管費	24,000	冷凍冷蔵庫等の保 管費 (電気代含 む) 12ヶ月分
			印刷製本費	50,000	呼びかけ資料印 刷、講演会資料印 刷、コピー代
			検査費	20,000	検便 (24人分)
			報償費	50,000	講演謝礼 (1回)
			旅費	5,000	講師1名 (日帰り 旅費)
			賃借料	30,000	子ども農園 (借り 上げ料、苗、肥料 含む ほか)
合計	630,000		合計	630,000	